



1 教育環境の整備

① 施策が目指す姿

対象 児童・生徒・教職員・保護者

目指す姿(状態) 児童・生徒が学習しやすい環境が整っている

② 成果指標 (KPI)

指標名	現状値	目標値
	令和2年度・2020年度	令和7年度・2025年度
児童生徒1人当たりの教育用コンピュータ数	令和元年度・2019年度 0.16台	1台以上
長寿命化計画に基づく具体的な改修計画の策定・改修の実施	未策定	改修計画に基づく改修の実施
異物混入、アレルギー、食中毒等、給食を原因として人体に影響を及ぼす事故の発生件数	令和元年度・2019年度 0件	0件

③ 現状と課題

現状

- 小学校児童数・中学校生徒数は減少しており、令和2年度においては、児童数はピーク時（昭和54年度）の33.2%の2,464人、生徒数はピーク時（昭和57年度）の38.6%の1,426人にまで減少しています。
- 学校の小規模化が進む中、「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針（令和元年8月に策定）」（以下「基本方針」という。）に掲げた学校統合の実現に努めています。このうち川奈小学校については、令和3年度に南小学校との統合が実現しています。
- 小中学校の校舎や指定緊急避難場所でもある体育館は、耐震工事を積極的に進めていますが、学校施設の老朽化が進んでおり、全体の約54%の施設が建築から40年を経過しています。
- 学校給食センターの建設により、市内全ての小中学校で給食が提供され、徹底した衛生管理及び市内統一のアレルギー対応方針の策定並びに市を挙げての地産地消の推進と食育の充実により、安全安心で美味しい給食提供に努めています。
- 食物アレルギーを持つ児童生徒が増加傾向にあることに加え、感染症対策や食中毒対策が重要視されるなど、給食提供に求められる作業が複雑化する中、給食センター以外の学校の給食調理場は施設が狭く、設備の著しい老朽化が問題となっています。
- 授業の質を向上させるため、パソコン教室への教育用パソコンの配置、小学校への電子黒板導入等を進めています。

課題

- 基本方針の具体的方策である「東小学校、西小学校、旭小学校の3校の統合」実現に向けた、児童への配慮及び保護者・地域住民との協議調整
- 今後の児童生徒数の減少を見据えた本市の小中学校のあり方の検討及び推進
- 長寿命化計画に基づく学校施設の老朽化対策の実施
- 老朽化が著しい学校の給食調理場への対応策の検討及び推進
- ICTを活用した情報教育充実のための施策の推進

④ 施策の方針

- 基本方針の具体的方策である「東小学校、西小学校、旭小学校の3校の統合」の実現と実現後は、本市の状況を見据えた新たな基本方針の検討を進めます。
- 学校施設全体の長寿命化を検討するとともに、トイレ等の設備の計画的な改修と併せ、危険度を踏まえた修繕に取り組むことにより、安全で良好な教育環境を確保します。
- 老朽化著しい調理場を給食センター受配校に拡充するなど、調理場の集約を進めるとともに、市と委託業者が連携を深め、アレルギー対応や感染症対策等に係る給食従事者としての資質向上を図ります。また、児童生徒が地元食材に親しみ、理解を深めるための献立の工夫に努めます。
- ICTを活用できる学習環境を整え、学校全体の情報環境整備を推進します。

⑤ 基本的な取組

基本的な取組	主な内容
小・中学校の規模と配置の適正化の推進	「伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針」の実現、新たな基本方針の検討
学校施設的环境整備及び老朽化対策	学校校舎トイレの改修（床の乾式化・洋式便器の増設等）、映像装置のデジタル化改修、校舎屋上防水工事の実施、学校施設の長寿命化を図るための大規模修繕の検討
学校給食センターを最大限に活用した食育と地産地消の推進	今後の児童生徒数を見据えた学校調理場の集約、安全安心な給食の提供、魅力ある学校給食の提供、学校給食を通じた食育の推進、学校給食を活用した地産地消の推進
最先端のICT教育環境整備の充実	児童生徒及び教職員1人1台端末環境の維持拡充、校内LAN（無線LAN）環境の維持拡充、大型提示装置の小中学校の全普通教室・特別教室整備、実物投影機の全普通教室整備（小学校）、デジタル教材を活用できる環境の整備

⑥ 役割分担

市民

（保護者）

- 学校における奉仕活動を始めとした各種活動を通じ、子どもたちの教育環境の向上に努めます。

学校

- ICT機器の操作方法や有効的な活用について、校内で研修を行います。
- ICT機器を活用した魅力ある授業を構築するために、校内研修の充実を図ります。

行政

- 子どもたちが安全・安心に学校生活を送れるよう必要な施設の適正管理・修繕・改修を行います。
- 未来を拓く子どもたちが、充実した教育環境で授業を受けられるよう、学校の規模・配置の適正化を進めるとともに、ICT機器等の環境整備を行います。

⑦ 関連する個別計画

- 伊東市学校施設長寿命化計画
- 伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針

2 未来を創る教育の充実(小・中学校)



① 施策が目指す姿

対象 児童・生徒

目指す姿(状態) 夢や希望を抱くことができる

対象 学校

目指す姿(状態) 子どもたちが夢や希望を育むことのできる魅力ある学校

② 成果指標 (KPI)

指標名	現状値 令和2年度・2020年度	目標値 令和7年度・2025年度
学校が楽しいと思う子どもの割合【小学校】(学校生活アンケート)	89.1%	95.0%以上
学校が楽しいと思う子どもの割合【中学校】(学校生活アンケート)	85.7%	90.0%以上

③ 現状と課題

現状

- ・全国学力学習状況調査の結果から、各学年に応じた学習内容は身に付いてはいるものの、学習意欲の低下や学力の二極化が見られます。
- ・経済のグローバル化やICTの急速な発展により子どもを取り巻く環境が急激に変化しています。
- ・グローバル社会を生き抜く人材を育成するため、本市では外国語指導員(ALT)やICT支援員等専門の支援員を配置しています。
- ・近年、地震、台風・集中豪雨等自然災害、熱中症、登下校中の事故等の子どもが巻き込まれる事案が発生し、学校における子どもの安全確保が求められています。
- ・特別な支援を必要とする児童・生徒が増加傾向にあり(H29:8.8%→H30:9.7%→R1:10.5%→R2:12.9%)、個に応じたきめ細やかな支援が必要となっています。
- ・急激な社会変化の中において、子どもたちの悩みや不安は複雑かつ多様化しており、いじめの認知件数が増加するとともに、不登校の出現率(小学校H29:1.24%→H30:1.37%→R1:1.44%、中学校H29:4.61%→H30:5.53%→R1:5.19%)が高くなっています。
- ・価値観やライフスタイルの多様化等により、地域社会におけるつながりが希薄化し、子どもを地域で育てるという考え方が失われつつあります。

課題

- ・社会を生き抜く基盤となる確かな学力向上のための施策の推進
- ・生きる力を身に付ける質の高い教育を推進するための施策の検討
- ・自ら身を守る危機回避能力や自らが判断し行動できる力を高める教育施策の充実
- ・インクルーシブ教育システムの構築のための施策の検討
- ・児童・生徒がお互いの良さや違いを認め合うことのできる教育施策の推進
- ・地域との連携による開かれた学校運営を推進するための仕組みの検討

④ 施策の方針

- 学び手の視点で授業を構想し、「自分ごととしての学び」を実現していけるよう授業改善に取り組みます。
- 社会の中で、自らの可能性を伸ばし、多くの人と関わり協働しながら、豊かな人生を切り拓いていけるようキャリア教育を進めていきます。
- 緊急時に適切に行動できる力を育成するとともに学校における危機管理体制の充実を図ります。
- 多様な教育的ニーズに応えることのできる教職員、支援員の育成に努めるとともに教育的支援体制の確立に取り組みます。
- いじめの起こらない学校づくりに取り組みます。
- 子どもが相談しやすい環境づくりと校内及び関係機関との連携体制を整えます。
- 学校と地域が連携をして、子どもたちの成長を支援する体制を整えます。

⑤ 基本的な取組

基本的な取組	主な内容
「学びに向かう力」の育成	確かな学力の向上、外国語教育の充実、ICT機器の効果的な活用
「人として備えたい力（人間性）」の育成	社会性や規範意識の定着（あいさつの奨励）、自己肯定感を高めて思いやりの心の醸成（道徳教育の充実）、小中学校の各段階におけるキャリア教育の推進
「命を守る力」の育成	危険を未然に回避する力や緊急時の対応力の育成、健康的な生活習慣の定着、運動能力の向上
教育的支援体制の充実	支援員の適正な配置、教職員の研修強化、校内及び市就学支援委員会の充実、いじめ対策の推進、不登校対策の推進
地域社会との連携推進	郷土愛の醸成、地域活動への積極的な参加、学校運営に関する情報発信

⑥ 役割分担

市民

(児童・生徒)

- 常に目標を持ち、それに向かって努力します。

(市民)

- 家庭において発達段階に応じた生活・学習習慣を身に付けさせるとともに、地域において心豊かな子どもを育成するための支援を行います。

学校

- 新学習指導要領で示されている、三つの柱（「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう力、人間性」）の育成を目指し、「主体的、対話的で深い学び」のある学習活動を推進します。
- 同僚性を高め、付けたい力に照らして子どもの姿で語るとともに、教員の資質・指導力の向上と授業改善を図り、工夫した校内研修を実践します。

行政

- 個に応じた指導、支援を進める上での必要な支援員の配置を行います。
- 教員の適正配置や指導力向上につながる研修が適切に行われるよう国や県に働きかけます。

⑦ 関連する個別計画

- 伊東市教育大綱



3 生涯学習活動の推進

① 施策が目指す姿

対象 市民

目指す姿(状態) 生涯にわたる学びや活動に参加し、豊かさを享受できる

② 成果指標 (KPI)

指標名	現状値	目標値
	令和2年度・2020年度	令和7年度・2025年度
「生涯学習活動の推進」に満足している市民の割合（市民満足度調査）	74.7%	78.0%以上
市民一人当たりの図書貸出冊数	令和元年度・2019年度 2.81冊	3.76冊以上

③ 現状と課題

現状

- 生涯を通じて快適に学習できるまちを目指していますが、全ての市民が生涯学習活動に積極的に参加しているとは言えない状況です。（R1：中央会館・ひぐらし会館登録団体 1,109 団体：1 団体 30 人と仮定した場合、33,000 人前後）
- 市民の生涯学習活動への参加回数は増加傾向にあるものの、全ての市民が学びや活動に参加し、豊かさを享受できているとは言えない状況です。（R1：市民一人当たりの生涯学習センター及びコミュニティセンターの利用実績 3.13 回）
- 生涯学習センターやコミュニティセンターにて開催している各種講座や教室、サークル活動などが十分に周知されていません。
- 伊東市生涯学習センター中央会館は、伊東図書館が併設されていることもあり、恒常的に利用者の駐車場が不足しています。
- 伊東図書館は、老朽化が著しいほか、閲覧用の開架スペースや中・高生が利用する学習スペースが不足しており、十分な図書サービスが提供できていると言い難い状況です。
- 貸出冊数、イベント・企画展の開催数は横ばい状況にありますが、延床面積、蔵書冊数、貸出数等は、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」や同規模自治体との比較では、基準を下回っています。

課題

- 生涯学習活動に気軽に参加できる体制の構築
- 生涯学習活動への継続的な参加機会の促進
- 各種教室の普及と市内で活動するサークル等団体の情報収集及び発信の強化
- 伊東図書館の新規登録を増やすための周知方法等や来館を促すための方策の推進
- 伊東図書館における蔵書数の増加や ICT 化、地域の知や文化を記す付加価値の高い資料等の利活用
- 施設のユニバーサルデザイン化や十分な閲覧スペース・学習室、利便性向上のため駐車場の確保など、施設機能の充実

④ 施策の方針

- 働き方が多様化する昨今において、ワークライフバランスを考慮しつつ、多くの方が参加できるように生涯学習の機会を提供します。
- 毎年度開催している市民大学、いでゆ大学、楽しく学ぶ子育て講座等の各種講座に関し、バラエティに富んだタイムリーな講座を開催するなど、講座内容の充実に努めます。
- 市内で活動しているサークル等団体の情報を、生涯学習情報誌「まなびのとびら」やホームページへ掲載するほか、SNS等を活用する中で積極的に広報を行います。
- 魅力ある図書館の構築を目指し、時勢・トレンドを反映した選書、交流スペースの創出、様々なイベントや企画展等を実施して来館者の増加を目指します。
- 生涯学習機能を有する新図書館建設事業を進め、図書館機能の充実や施設の充実、サービスを向上し、新規利用者の確保や潜在利用者の利用を促進します。

⑤ 基本的な取組

基本的な取組	主な内容
生涯学習機会の提供	生涯学習自主事業等の充実、生涯学習指導者等の発掘
市民の自主的生涯学習活動の推進	市民向け学習講座・教室の内容の充実、学習成果を生かした地域における学習交流機会の創出
生涯学習団体の情報提供の充実	広報紙やSNS等を活用した情報提供、市内サークル活動団体の情報収集、生涯学習情報誌やホームページによる情報発信
魅力ある図書館の構築事業の推進	様々なイベントや企画展の実施、新図書館建設

⑥ 役割分担

市民

- 一人一人が、伊東市民憲章に掲げる“文化を高め、教養を豊かにしましょう”の実現に向け、学ぶことの喜びを再認識するとともに、自己の研鑽けんさんに努めます。
- 生涯学習の根幹である“知の循環型社会”の構築を目指し、知的資源の共有に努めます。

行政

- 国・県の動向や、社会情勢を的確に捉え、新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策を実施します。
- 時代のすう勢を見極めるとともに市民ニーズを的確に把握し、付加価値の高い生涯学習施策を実現します。
- 学習情報の収集・発信に係る充実を図ります。
- 『伊東市の知と魅力』を集約・発信する拠点として、市内外から多くの方が訪れ、知的資源の共有ができる新図書館の建設を進めます。

⑦ 関連する個別計画

- 伊東市子ども読書活動推進計画
- 伊東市新図書館基本構想
- 伊東市社会教育施設長寿命化計画



4 青少年の健全な育成

① 施策が目指す姿

対象 **青少年**

目指す姿(状態) **次代を担う青少年が、豊かな人間性・社会性を身に付け、地域とともに健やかに育つことができる**

② 成果指標 (KPI)

指標名	現状値 令和2年度・2020年度 令和元年度・2019年度	目標値 令和7年度・2025年度
小・中・高生一人当たりの地域学校協働活動への参加回数	1.35 回	1.68 回以上

③ 現状と課題

現状

- 青少年の健全育成においては、地域における生活環境も重要な要素の一つですが、ライフスタイルが多様化する昨今、地域とのコミュニケーションが希薄化しつつあります。
- 少子化や核家族化の進行により、子どもや子育て家庭を取り巻く環境が大きく変化しつつある中、放課後等に児童・生徒が交流する機会や安心して過ごせる場所が減少しています。
- 少子化や核家族化の進行により青少年の地域活動への参加機会が減少しています。
- ICT化の推進やSNSツール等の普及に伴い、青少年が地域の中で、元気に活動する機会が減少しています。

課題

- 青少年が地域社会に積極的に参画できる体制の構築
- 地域社会の中で、放課後及び週休日並びに夏休み等の長期休暇時における子どもたちの安全で健やかな居場所づくり
- 青少年が地域活動に参加しやすい機運の醸成及び地域の積極的な関与
- 青少年が身近な自然環境や地域の歴史・文化に触れる機会の創出及び次世代を育てようという機運の醸成

④ 施策の方針

- 青少年が生まれ育った地域で元気に活動できるように声かけ・あいさつ運動を推進し、積極的に地域との連携を保てるように支援していきます。
- 地域の協力を得る中で、子どもたちの活動拠点（居場所）を確保するとともに、様々な体験活動や地域住民との交流活動等を促進します。
- 次代を担う青少年が地域において善い行いや優れた活動をできるよう促します。
- 青少年の豊かな心とたくましい身体づくりを推進するため、郷土の文化や史跡、恵まれた自然に触れる機会を創出するとともに、地域における行事や奉仕活動へ世代を超えた積極的な参加を促します。

⑤ 基本的な取組

基本的な取組	主な内容
声かけ・あいさつ運動の推進	地域におけるあいさつ運動の推進、小・中学校及び高校におけるあいさつ運動推進、あいさつ運動の広報の推進
地域における居場所づくりの推進	地域活動団体の推進、広報紙やSNS等を活用した地域における放課後等子どもたちの居場所に係る情報発信
地区青少年健全育成活動の活発化	青少年健全育成活動への地域の積極的な関与
次世代を担うリーダーの育成	リーダー育成機会の拡大（夢チャレンジクラブの開催）、少年教育の推進（小学生ふるさと教室の開催）、年少者を指導する中高生の育成（静岡県初級・中級青少年指導者認定者事業の推進）

⑥ 役割分担

市民

（地域）

- ・ 青少年の健全育成には、地域の協力が必要不可欠である旨を再認識し、未来を担う青少年を地域全体で育むよう努めます。

学校

- ・ 未来を担う青少年の健全育成に向け、家庭・地域・行政等との積極的な連携に努めます。

行政

- ・ 青少年が地域行事に参加しやすい雰囲気づくりを支援します。
- ・ 時代のニーズを的確に捉え、ふるさと教室や夢チャレンジクラブを始めとした教室プログラムの魅力を向上させるとともに、参加しやすい環境を構築します。
- ・ 青少年に次世代を担うリーダーとしての自覚、後継を育てようという意識が芽生えるよう、育成します。
- ・ 本施策を通じ、地域が活性化するよう、必要な情報発信をします。



伊東市あいさつ運動の様子



5 市民スポーツ活動の推進

① 施策が目指す姿

対象 **市民**

目指す姿(状態) **気軽に快適にスポーツに取り組むことができ、生涯にわたって健康を維持することができる**

② 成果指標 (KPI)

指標名	現状値 令和2年度・2020年度	目標値 令和7年度・2025年度
「市民スポーツ活動の支援」に満足している市民の割合 (市民満足度調査)	73.3%	80.0%以上

③ 現状と課題

現状

- ・「市民一人一スポーツ」を目指し、伊東市体育協会等のスポーツ団体と相互に協力を図り、オレンジビーチマラソン、伊東駅伝を始めとする各種スポーツ大会の開催あるいは開催支援をしています。
- ・各地域の体育振興会と連携を図り、区民体育祭等の地域スポーツの振興に努めています。
- ・伊東市民体育センター、伊東市民運動場、大原武道場等の社会体育施設に指定管理者制度を導入し、きめ細やかな市民サービスの向上に努めるとともに、小・中学校の体育施設を市民に開放して、スポーツの振興を進めています。
- ・各種教室等による実技指導を実施し、ニュースポーツ等、幅広い年代の市民が楽しむことができるスポーツの普及活動を進めています。
- ・より多くの市民が安全で安心してスポーツに親しむことができるように、伊東市民運動場人工芝生化事業や遊歩道等の周辺環境整備等、社会体育施設の更新をしています。

課題

- ・少子高齢化による各種スポーツの競技者確保及びスポーツ団体の充実化
- ・市民の誰もが安全で安心してスポーツを楽しむための社会体育施設の充実
- ・市民が気軽に参加できるスポーツによる健康づくりの推進及び実技指導を通じた生涯スポーツの充実化
- ・伊東市民運動場の健康増進の活動拠点としての形成及び周辺遊歩道も含めた効果的な活用方策の推進
- ・老朽化が進む社会体育施設及び学校体育施設の維持管理及び更新

④ 施策の方針

- ・市民各自の体力や年齢、技術、興味、目的に応じてスポーツに取り組むことができるように、各種スポーツ団体への支援を図ります。
- ・安全、安心にスポーツに取り組める拠点施設として、社会体育施設及び学校体育施設の維持管理及び更新に努めます。
- ・市民誰もが健康的にスポーツを楽しむことができるように年齢やレベルに応じた指導ができる指導者の養成を目指し、専門的技術指導のできるスポーツ推進委員の拡充に努めます。
- ・市民がスポーツに取り組んだ結果、健康維持及び体力向上を実感できるための支援に取り組めます。

⑤ 基本的な取組

基本的な取組	主な内容
スポーツ団体の支援	スポーツ団体の活動支援、スポーツに取り組む市民の活動支援
社会体育施設等の充実	社会体育施設の設備等更新、学校体育施設の設備等更新
指導者の養成	スポーツ推進委員の拡充
市民の健康維持及び体力向上	スポーツ教室の拡充、市民の体力向上

⑥ 役割分担

市民

- ・生涯にわたって健康を維持することを意識し、積極的にスポーツに取り組めます。
- ・スポーツ団体構成員は、競技者や指導者の確保に努めます。

行政

- ・各社会体育施設で実施することができる種目を情報発信します。
- ・スポーツ団体に対して、活動支援をします。
- ・スポーツ推進委員を拡充し、知識及び技術修得を支援します。
- ・スポーツ教室の充実を図ります。
- ・社会体育施設の大規模改修や修繕を積極的に実施します。
- ・人工芝生化事業完了後の伊東市民運動場利用促進を図ります。

⑦ 関連する個別計画

- 伊東市社会教育施設長寿命化計画



伊東駅伝競走大会の様子



6 歴史・芸術文化の振興

① 施策が目指す姿

対象 市民

目指す姿(状態) 歴史、芸術文化に触れ、心を豊かにするとともに、後世に伝えることができる

② 成果指標 (KPI)

指標名	現状値	目標値
	令和2年度・2020年度	令和7年度・2025年度
「芸術・文化に触れる機会の充実」に満足している市民の割合 (市民満足度調査)	62.7%	70.0%以上
「史跡・郷土芸能の保存」に満足している市民の割合 (市民満足度調査)	75.9%	80.0%以上

③ 現状と課題

現状

- 本市の恵まれた自然環境がもたらす自然遺産や先人から受け継がれてきた歴史遺産は、地域や関係団体によって受け継ぎ、守られています。
- 国指定史跡「江戸城石垣石丁場跡」は、かつて江戸城の石垣用石材が採石された場所であり、当時を知る上で欠かせない歴史遺産であることから、保存活用計画の策定を進めています。
- 心豊かな市民生活、活力ある地域社会の実現を目指すため、平成27年に伊東市文化振興基本構想を策定しました。
- 市立木下奎太郎記念館では、郷土の偉人木下奎太郎の偉業を紹介し、文化財管理センターでは、原始からの本市の歴史を展示しています。
- 近年、本市の新たな歴史情報を発掘・集約し、伊東市史を改訂しました。
- 伊東市史を活用し、市民に学ぶ、知る機会を提供しています。
- 市民の文化活動は活発で、行政は助成や後援により支援しています。
- 芸術祭や各種教室の開催により、文化に親しむ人を育成しています。
- 伊東市観光会館やひぐらし会館等の施設の老朽化が進み、市民や各種団体が文化振興に資する取組を発表・鑑賞するための十分な場を提供できているとは言えない状況です。

課題

- 地域住民への史跡江戸城石垣石丁場跡保存活用計画の周知
- 市内文化財の保存活用における総合的なアクションプランとなる文化財保存活用地域計画の作成
- 歴史講座等を通じた文化財に親しむ機会の拡充及び文化財愛護精神の育成
- 木下奎太郎記念館及び文化財管理センターの更なる活用
- 各地域の特色ある伝統芸能の担い手の育成
- 芸術文化活動団体の連携強化及び活動の活性化
- 市民が気軽に芸術・文化に触れることができ、文化振興に資する十分な活動ができる場の整備

④ 施策の方針

- 文化財を保護・保存し、後世に伝えていくため、地域や保存団体と連携を取り、的確な支援と育成に努めるとともに、担い手の育成に努めます。
- 史跡江戸城石垣石丁場跡保存活用計画に沿った施策実施に努めます。
- 文化財の保存活用を図るため、文化財保存活用地域計画の作成に取り組みます。
- 市民が本市の歴史に興味を持ち、進んで学ぶことができる学習機会の充実を図ります。
- 木下空太郎記念館及び文化財管理センターの充実に努めます。
- 芸術文化活動団体を支援し、活動の活性化に努めます。

⑤ 基本的な取組

基本的な取組	主な内容
文化財の保護・保存	指定文化財等への保護や支援、史跡江戸城石垣石丁場跡保存活用計画に沿った施策実施
歴史に触れる機会の提供	歴史講座及び出前講座並びに講演会の充実、木下空太郎記念館及び文化財管理センターの充実
芸術文化活動の支援	芸術文化団体等の支援、芸術文化に取り組む個人の支援
文化拠点となる場の整備	文化拠点となる場の整備に向けた調査・研究

⑥ 役割分担

市民

- 文化財を保護・保存することの大切さを学び、後世に伝えます。
- 積極的に芸術文化活動に取り組むとともに活動の輪を広げていきます。

行政

- 文化財保護・保存に携わる団体・個人と連携し、保護や支援をします。
- 歴史講座、出前講座及び講演会等、市民の学習機会を充実させます。
- 木下空太郎記念館及び文化財管理センターを充実させます。
- 芸術文化活動に取り組む団体・個人を支援します。
- 文化拠点となる場の整備に向けた調査・研究を行います。

⑦ 関連する個別計画

- 史跡江戸城石垣石丁場跡保存活用計画
- 伊東市文化振興基本構想



7 郷土愛の醸成

① 施策が目指す姿

対象 本市の将来を担う高校生

目指す姿(状態) 気軽に快適にスポーツに取り組むことができ、生涯にわたって健康を維持することができる

② 成果指標 (KPI)

指標名	現状値	目標値
	令和2年度・2020年度	令和7年度・2025年度
伊東市に将来戻ってきたいと思う高校生の割合（高校生アンケート）	58.0%	65.0%以上
郷土に誇りと愛着を持っている高校生の割合（高校生アンケート）	71.6%	75.0%以上

③ 現状と課題

現状

- 将来本市に戻ってきたいと思わない高校生の割合が31.2%、郷土に誇りと愛着を持っていない高校生の割合が26.2%となっています。
- 市外に移りたいと思う高校生の割合が57.9%となっています。
- 市外の高校に通学する割合が52.6%と高い割合となっています。
- 本市の魅力を高校生の視点で捉え、伝えていく伊東市高校生観光おもてなし特派員事業の実施や市制施行記念事業を始めとした記念事業実施の際の啓発ツールの作成等、高校と行政が連携する機会は生まれていますが、関係団体等も含めた地域全体で郷土愛を醸成し、未来を担う人材を育成する機会を十分に創出できているとは言えません。

課題

- 高校生と行政の連携及び関係団体等も含め地域一体となった郷土愛醸成の仕組みの構築

④ 施策の方針

- 高校と行政の連携を継続・強化するとともに、関係団体等との連携を図り、高校生がまちづくりに参画する機会を作りながら、地域全体で高校生の郷土愛の醸成を図る環境づくりと未来を担う人材の育成機会の創出に努めます。

⑤ 基本的な取組

基本的な取組	主な内容
郷土愛醸成に向けた連携の推進	高校・行政との連携事業の推進、高校・行政・関係団体等との連携の推進、伊東市高校生観光おもてなし特派員事業の更なる推進

⑥ 役割分担

市民

(高校生)

- 本市の未来を背負って立つという意識を持ち、地域の歴史や課題、魅力等について探求的な学びを通じて、地域に還元できるよう努めます。

(関係団体等)

- 高校が実施する取組に積極的に協力するとともに、行政とも連携する中で、一体となって郷土愛の醸成を図る環境づくりと未来を担う人材の育成機会の創出に努めます。

行政

- これまで進めてきた高校と行政の連携を継続・強化するとともに、関係団体等との連携も図りながら、地域全体で高校生の郷土愛の醸成を図る環境づくりと未来を担う人材の育成機会の創出を進めます。



伊東市高校生観光おもてなし特派員の活動の様子